

富士通 PCサーバ プライマジー

PRIMERGY

TX300FTS5/TX300HAS5



高可用性を実現する高信頼サーバ

低コストで高信頼、TCO削減を追求する「PRIMERGY TX300FT S5」

高信頼サーバとして、FT (Fault Tolerant) モデル「PRIMERGY TX300FT S5」、
HA (High Availability) モデル「PRIMERGY TX300HA S5」をご用意しました。
ハードウェアコンポーネントを二重化することにより、万が一、片方のハードウェアにトラブルが発生しても
TX300FT S5は連続運転が、TX300HA S5は切替運転が可能。業務の停止時間を短縮できます。
共有のディスクアレイ装置が不要なため、低コストで信頼性の高いシステムを容易に導入できます。



PRIMERGY TX300FT S5

ラックマウントタイプ



タワータイプ

PRIMERGY TX300FT S5/TX300HA S5

※ラックマウントタイプの写真は、システムの構成例です。ラック、キーボード、マウス、ディスプレイ、UPS等は別途手配願います。
※写真はTX300FT S5ですが、TX300HA S5も外観は同じです。

手間のかからない導入・運用

～容易な導入～

Windows OSをプレインストールして提供
セキュリティや信頼性を強化した、Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition (SP2)をインストールしたタイプを提供します。FTモデルではWindows Server® 2003 R2, Enterprise Editionのメモリ・ミラーリング機能により、片系故障状態から冗長構成に復旧する際、システムを稼働したままメモリの再同期処理を行います。



既存アプリケーションをそのまま活用

OSやアプリケーションからはシングルシステムとして認識されるため、既存のWindowsアプリケーションをそのまま変更なく使用できます。(HAモデルは、OSを起動するだけで業務が起動するように構成されている必要があります)。Windows OSの豊富なアプリケーションを活用したシステム構築が可能です。

～容易な運用～

サーバ監視ソフト「ServerView」によりPRIMERGYの安定稼働を支援
「ServerView」は、サーバのイメージどおりに状態監視が可能なサーバ監視ソフトウェアです。「ServerView」により、CPU、メモリ、ハードディスク、ファンの稼働状況、筐体内の温度や電圧等のサーバステータスを確実に把握することで、安定稼働を強力に支援し、容易かつ確実なサーバの運用管理を実現します。万が一トラブルが発生した場合も、速やかにサーバ管理者への通知をおこなうとともに、早期原因究明を支援するため、サーバ情報のロギングやレポート機能を提供します。

● 予防保守機能『PDA』*によりシステムダウンを未然に防止

システムダウンの原因となる前兆を的確にとらえ、「ServerView」で監視コンソールにて通知。対象部品の予防交換により、システムダウンを未然に防ぐことが可能です。

- 電源電圧、CPU温度を常時監視
- 訂正可能なメモリエラーの統計的異常検知
- 「S.M.A.R.T」によるハードディスク内部エラーの統計的監視

*PDA: Pre-failure Detection Analysis

トラブル発生時にもスムーズな復旧が可能

リカバリDVD-ROMを標準で添付しているため、短期間で簡単にOSの再インストールがおこなえます。これにより、万が一のトラブル発生時にも、容易にシステムを復旧することができます。また、標準のPCサーバを冗長化コンポーネントとして使用しているため、故障サーバの修理にも全国のサービスエンジニアが対応*。迅速な復旧を支援します。

*保守・運用支援サービス「SupportDesk」をご契約ください。

300FT S5」「PRIMERGY TX300HA S5」

連続稼働の実現

FTモデル／HAモデル共通の特長

I/O処理を分離し、仮想化した業務処理部と制御部の2つのOSが1台のサーバ上で動作します。FTモデルは業務処理部と制御部が2台のサーバでHAモデルは制御部が2台のサーバで業務処理部は運用側でのみ動作します。2台のサーバは、同一のIPアドレス／仮想MACアドレスを切替えて動作し、障害発生時に切替え後もIPアドレス／仮想MACアドレスを引き継ぐため、ネットワーク環境を変更することなく稼働することが可能です。

<FTモデルの特長>

■FTモデルの構成と動作

2台の標準PCサーバで1台の仮想サーバを構成します。業務処理部のOSは2台のサーバ間で同期し、プロセッサレベルで全く同じ動作を行います。同期制御は制御部OSで行うため、業務処理部のOSおよび、この上で動作するアプリケーションは単体サーバ上と同じイメージで動作します。

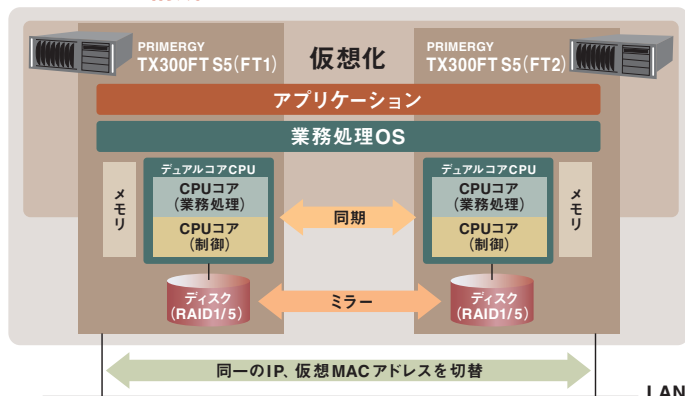
■障害発生時の動作

ハードウェア障害が発生した場合はそのサーバを切り離すだけなので、ほとんど停止時間はありません（ネットワークの切替が発生する場合があります）。実行中の処理も継続されます。

■CPUコア

デュアルコアプロセッサ1つのみ搭載可能です。1コアを制御用に使用するため、業務処理に使用できるのは1コアのみです。

FTモデルの構成



<HAモデルの特長>

■HAモデルの構成と動作

2台の標準PCサーバを運用と待機の役割に分けて構成します。DISKのI/O処理は2台のサーバ間で同期していて、運用側でHDDに書き込まれたデータは待機側のHDDにも書き込まれるため、2台は同じデータを保持します。業務処理部のOSは運用側でのみ起動しています。

■障害発生時の動作

運用側でハードウェア障害が起こると、待機側で業務処理部のOSが自動的に起動され、制御部の同期処理によって運用側と同じに保たれたHDD内のデータを使用して業務が再開されます。

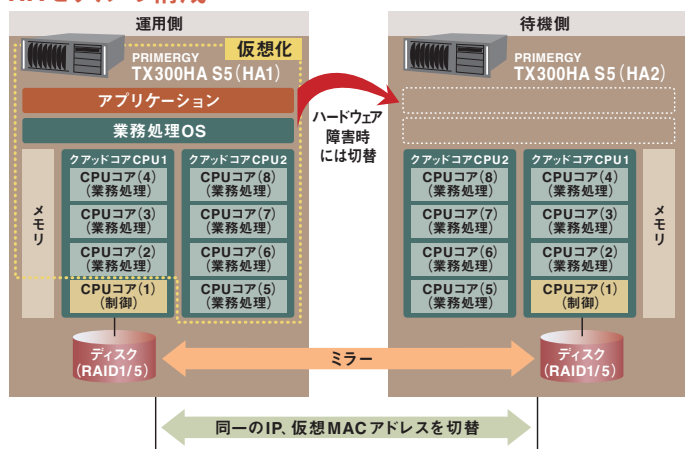
※待機側でOSを起動するだけで業務が再開されるように構成されている必要があります。

※OSのダーティシャットダウン後の再起動と同等の状態になるため、データが壊れる場合があります。この場合、システム管理者による復旧作業が必要になる場合があります。

■CPUコア

クアッドコアプロセッサを標準で1つ、最大2つ搭載可能です。1コアを制御用に使用しますが、業務処理には最大7コアまで使用できます。

HAモデルの構成 ※クアッドコアCPU2はオプション

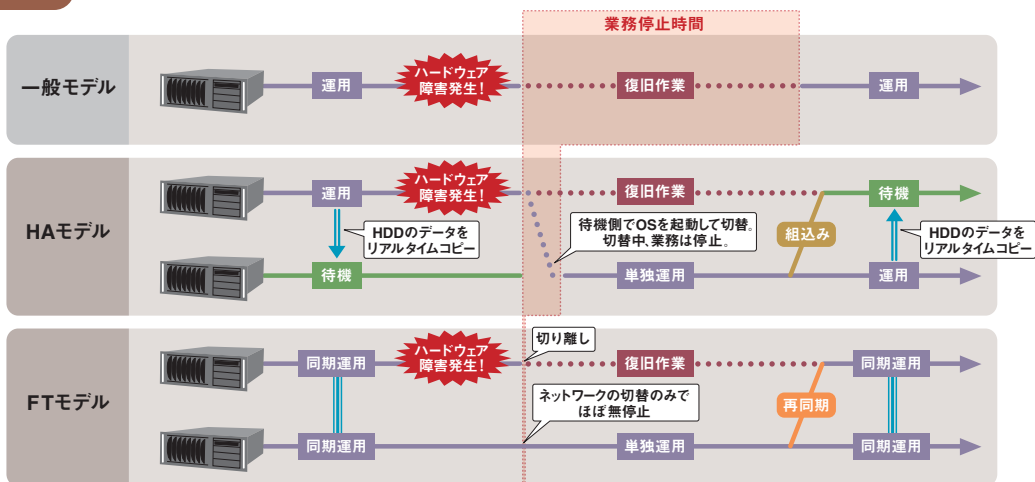


障害発生から復旧まで

一般モデルは障害が発生すると、サーバが復旧するまで業務が停止します。

HAモデルは運用側で障害が発生すると待機側に切替えて業務が再開できるため、業務の停止時間が短くなります。サーバが復旧すると、運用を継続したまま冗長構成に戻せます。

FTモデルは障害が発生するとそのサーバを切り離すだけなので、業務はほぼ無停止です。同期運用をしているため、実行中の処理も継続されます。サーバが復旧すると、運用を継続したまま冗長構成に戻せます。



「SupportDesk」によりシステムの安定稼働を支援

サービス

富士通サポートセンター（OSC*）の専門技術者が、ハードウェア/ソフトウェアを一括で最大24時間365日サポートします。万一のハードウェアトラブル時には、全国拠点からサービスエンジニアを派遣し、迅速な訪問修理を実施。充実したサービス内容で、システムの安定稼働を強力に支援します。

*OSC: One-stop Solution Center (SupportDeskご契約のお客様専用の総合サポートセンター)

●サービス利便性の追求/サービスの見える化

お客様ごとに専用ホームページ「SupportDesk-Web」を開設。技術情報、運用ノウハウ、修正ソフトウェアの提供、お問い合わせ対応の履歴などを提供し、契約の「見える化」を実施します。

《SupportDesk-Web体験ページはこちら》

<http://jp.fujitsu.com/solutions/support/sdk/sd-standard/sdk-web/>

